

いのちの言の葉2010

富山県教育委員会 平成 22 年度いのちの教育総合支援事業

「がんとともに生きる」(道徳)

富山市立呉羽中学校 1～2 学年生徒
平成 22 年 10 月 27 日実施

【いのちの先生】

坂井 桂子先生
・看護師

【授業の概要】

- 1 「いのちの先生」の紹介
- 2 「いのちの先生」の講演
 - (1) 「死」について
 - (2) 現在の死亡原因
 - (3) がん患者さんとのかかわりを通して
 - (4) 医療の仕事
 - (5) 人が生きるとは
- 3 授業の感想の記入とシェアリング



授業の感想 (2年生女子)

いのちの授業を受けて、改めて自分のいのちの重さについて考えさせられました。坂井先生が、人生の終末をどのように迎えたいかと質問されたとき、私はびっくりしてしまいました。死について今まで考えたことなどなかったからです。今は死について考えたくないという気持ちが強いです。でも、人は必ず死を迎えなければなりません。だからこそ私は、一度きりの人生を、今このときを大切に生きていきたいと思いました。また、自分だけでなく人のいのちも大事にしたいと思いました。授業を通して、いのちについて深く考えることができました。坂井先生、ありがとうございました。

授業の感想 (1年生女子)

私は授業を受けて、いのちについて真剣に考えさせられました。「この世に生を受けたら、いつか必ず死はやってくる」ということは分かったつもりでいましたが、先生のお話を聞いて、限られたいのちの中で、自分に与えられた時間を大切にしようと思えました。

今日いのちについて深く感じたことを、家族とじっくり話をしてみようと思います。

授業の感想 (1年生男子)

ぼくはいのちの授業を受けて、先日見たテレビ番組のことを思い出しました。主人公は、がんを告知されバレーボールを続けることができなくなり、最後には亡くなってしまいます。今日の授業を受けて、人は自分の死を受け入れることは大変難しいのだと改めて思いました。

ぼくはまだ若く、なかなか死について想像することはできませんが、これからはいのちについて真剣に考えていきたいと思いました。